

『越境』_____、

まなざしを深めるところから未来へ向かっていく。

60 年前、日本臨床心理学会が発足した時代は、どのような日本であったのだろうか。

今回、大会が開催される”かわさき”、

60 年前のある日、川崎にて

当時 20 代の青年が一眼レフで撮影した“みやまえ”（現川崎市宮前区）のスライドフィルムと音声の記録が山形で見つかった_____。

それをまちの倉庫から発見したのは、首都圏から赴いた地域おこし協力隊、後に山形県に移り住み学芸員となった 20 代の若者でした。

後に“高度成長時代”と呼ばれる時代。

貴重な記録は、山形県白鷹町の人々の手で DVD に復元されて蘇り、やがて一本の映画『出稼ぎの時代』となります。

一つまちがどのように発展し、整備されてきたのか_____。

その映像は、半世紀を経て、たしかな人の手が加わって田園都市がつくられた過程を、背景を私たちに伝え、

同時に高度成長期以降の日本の地方の物語も教えてくれます。

市場や国家という制度によって分断され、覆い隠されている現代社会において、“関係”は目に見えない、

つながりを、境界を、線のひきかたをずらすことで再発見すること。

国家と個人のあいだ、集団と個人のあいだにひろがる場＝地域において、ともにいまを生きる人々の背景を知り、理解をする。

そうしてこそ、ここからはじまる未来を展望し、よりよいビジョンをともに描き、次世代に向けて共有することもできると思うのです。

人と人、背景を知り、想像力のあるまちであるために_____、

想像力のあるコミュニティであるために_____。

『越境、対話とその周辺』

今回の 62 回大会、開催テーマのプロローグとして、企画いたしました。

まなざしを深めるところから未来へ向かっていく。

映像と対話による交流を育み、ともに未来を展望するビジョンを描くひととき、をぜひご一緒にできたらと思います。